

## 在宅での人生の最終章の過ごし方及び 看取りのあり方

### 提 言

人生の最終章を、

どう過ごすか自ら発言できる社会を

つくっていこう。

その社会を支援する活動をすすめていこう。

### 登壇者

- 【進行役】 花戸 貴司氏 東近江市永源寺診療所所長  
土畠 智幸氏 (医) 稻生会理事長  
中村 秀一氏 (一社) 医療介護福祉政策研究フォーラム理事長、国際医療福祉大学大学院教授  
樋口 恵子氏 (特非) 高齢社会をよくする女性の会理事長

#### ■ 寄せられた声から

- 地域に住んでいる私（50代）が人生の最終章を迎える時、在宅で過ごせるのか？  
専門職の制度＋地域のつながりがあればそれは可能なのか考えさせられる分科会でした。生老病死についても地域の仲間と話せる機会がくれたらと思います。
- パネリスト3人および進行役の発言は全て内容が深く有益でかつ感動的でした。

## 議事要旨 花戸 貴司氏

土島さんは、小児在宅医療の視点からエンドオブライフケアを語られた。医療的ケア児やその家族に対する支援に関する法整備、とくに医療と保育所や学校など生活の場における制度の狭間が存在する。そこで医療を提供するだけでなく、当事者研究、みらいづくり食堂、障がいをもつ子たちの写真展など、いろいろな活動をおこなってきた。

障害とはその人がもっているものではなく、社会が作り出しその人に与えてしまうもの。常に誰かが誰かを気にかけて自然にお互いに助け合うことができるより良き社会の構築が必要であると気づいた。目指すべきはコンパッションエート コミュニティ (Compassionate communities) であり、看取りを通して次の世代への生きることにつながっていく、また人生の最終章は高齢者のみのものではないと締めくくられた。

厚生労働省で長年行政の現場にいた中村さんは、人口動態統計をもとに今後のあり方を述べられた。日本の死亡者数は2040年までは増える。また、死亡場所別では1977年に自宅での死亡が50%を下回り2005年12.2%となった。その後は自宅や施設で亡くなる方が増えている。実際の地域を例にとると、練馬区の在宅医療推進事業によると、2011年は87%が病院や診療所で亡くなっていたが、2020年は68%となっている。また、がん患者の半数は自宅で亡くなっているという現状報告をされた。

そして、今後必要なことは、病院完結型から地域完結型医療への転換、そして地域ごとの医療・介護・予防・生活支援・住まいの継続的で包括的なネットワーク、すなわち地域包括ケアの地区展開であると述べられた。

人生の最終章を生きる当事者の樋口さんからは実体験に基づく話をいただいた。私は働く娘との二人暮らしだが、日本社会もこれからはファミレス社会（ファミリー

・レス）で老いを看取っていかなければならない。日本だけではなく、世界のどの社会でも女性が長生き。日本で75歳以上だと男女比は6:4であるが、100歳になると女性が9割を占める。

また、2000年は三世帯世帯が26.5%、単独+高齢夫婦のみ46.8%であったが、2019年はそれぞれ9.4%、61.1%となっている。今までは家の嫁が主な介護を担ってきたが家族の形が変化しており、この流れは止まらない。

親が老いた時、子が親の面倒をみる文化はある。しかし北欧において自分の親を介護するために自分の就労時間を削ることはない。つまり、家族介護ではなく社会での介護が必要になってくる。働く女性を支えるためにも、ワークライフ・ケア・バランス から ケア・ワーク・ライフバランスへの変革が必要である、と述べられた。

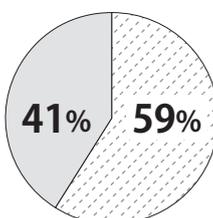
その後の議論では、これから老いや死を迎える中で、孤独死というのは日中一人暮らしの人が多く「ファミレス社会」の象徴である。家族に負担をかけなくても生活できる、一人で死んでもいいような仕組みが必要である。しかし、老いや看取りといったものは一般化できるものではなく、個別性の高い事例が多い。このため、制度だけではなく共助・互助のつながり等地域の中で支えていくことが大切である。

最後に、登壇者・発表者全員に Advance Care Planning (ACP) についてお聞きし、一人ひとりの思いを語り合った。

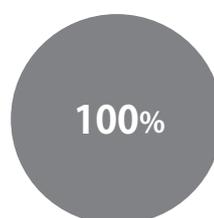
今回の分科会をとおして、人生の最終章を支えるということは、制度だけで解決できるような簡単な問題ではない。個々の主体性、そして自己決定が大切であることはもちろん、地域の中で専門職や非専門職と繋がり支え合うことが大切であると締めくくった。

### アンケートの結果 参加者概数：83名 回答者数：40名

回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方

